

巻頭
特集

好奇心がうむ発見

原っぱで

秋の虫探し

涼しくなり葉が落ちて草も少なくなる秋は、
絶好の虫探しシーズン。
虫を見つけたら、すぐに捕まえず、
飛び方や跳ね方、動き方を観察してみよう。
そして、虫捕りにはルールがあることを覚えておきたい。
虫との触れ合い方を
昆虫専門員の筒井学さんに教えてもらった。

教えてくれたのは



昆虫専門員
筒井学さん

挑戦したのは

相生市在住の
小鳥さん親子

翔子ママ、蒼介くん(5歳)、
彩葵ちゃん(4歳)

虫たちの生態を教えて!

昆虫専門員 筒井学さん

Q2

テントウムシを捕まえたら、黄色い汁を出した。これは何?

筒井さん この汁はテントウムシの血液。臭くて苦い汁を出すことで、鳥などの天敵から身を守っているんだ。

虫は不思議がいっぱいだね

Q4

昆虫はどうして姿が変わるの?

筒井さん 遠くまでパートナーを探しに行けるように、移動できる姿に変化するんだよ。姿が変わる昆虫は完全変態といって、チョウやカブトムシ、ハチ、ハエなどが該当するよ。卵→幼虫→さなぎ→成虫という4段階の成長過程があり、さなぎになると、一度内部で体を溶かし、成虫の姿につくり変えるんだって。不思議だね。

Q1 バッタにはどんな種類がいるの?

筒井さん 代表的な種は体長4~7cmの「トノサマバッタ」。他に、メスの背中におosgが乗っている「オンパバッタ」。オスの体長は約5cmだけれどメスは約8cmと特大サイズの「ショウリョウバッタ」も日本ではよく見られるね。

これがオンパバッタ!

Q3

寒くなると虫がいなくなるけど、死んじゃうの?

筒井さん 死ぬ虫もいるけれど、木や石のすき間や落ち葉の中に身を隠して、暖かくなるのを待っている虫もいるよ。チョウの種類によっては暖かい地域に飛んでいくものもいるんだ。

カブトムシの幼虫



フリモARでさなぎが動く様子を見てみよう!

FRIMOR

虫の持ち方をチェック

千ヨウ



トンボ



千ヨウやトンボなどはねのある虫は人差し指と中指ではねをはさむよ!



バッタ

バッタは背中部分を持ってね!

網を持って原っぱへ!



バッタをつかまえた!

網の中に入ったよ

黄色い毛虫見つけた!

テントウムシがとまった!!



虫捕りのルールは、虫を傷つけないようにするのがコツのようだよ。

筒井さんに連れられ、秋の原っぱにやってきた小島さん親子。「ここにはどんな虫がいるの?」。蒼介くんは「今のは時期はチョウやガ、トンボ、バッタ、テントウムシなどが暮らしているよ」と筒井さん。すると彩奈ちゃんも「さなぎ、さなぎ、さなぎ」とお家なんだね。「さなぎ、だから虫の住み家を荒らさないようにしよう。虫探しをするときは、花や木を折ったり傷つけたりしないように気を付けて」とアドバイス。

すると目の前にバッタが現れた。「捕まえるぞ!」と大張り切りの蒼介くん。右往左往、網を振るけれど空振りばかり。その横で、簡単に捕まえる筒井さん。草に止まっている虫を、横からさっと網の中に入れて、網の入口を下向きにして、逃げないようにするのがある。筒井さん「さなぎ、さなぎ、さなぎ」とお家なんだね。「さなぎ、だから虫の住み家を荒らさないようにしよう。虫探しをするときは、花や木を折ったり傷つけたりしないように気を付けて」とアドバイス。



筒井さんに連れられ、秋の原っぱにやってきた小島さん親子。「ここにはどんな虫がいるの?」。蒼介くんは「今のは時期はチョウやガ、トンボ、バッタ、テントウムシなどが暮らしているよ」と筒井さん。すると彩奈ちゃんも「さなぎ、さなぎ、さなぎ」とお家なんだね。「さなぎ、だから虫の住み家を荒らさないようにしよう。虫探しをするときは、花や木を折ったり傷つけたりしないように気を付けて」とアドバイス。

傷つけないように捕り、観察したら逃がす

つけないように捕り、観察したら逃がすこと。「バッタは背中部分で、トンボや千ヨウは人差し指と中指でしっかりとねをつかむと、虫のダメージが少なくていいよ」と筒井さん。バッタの顔を初めて近くで見ただけで「あ、触角がとがっていて面白い」と大喜びだ。彩奈ちゃんも赤トンボをゲット。「大切な命だから逃がしてあげよう」、翔子ママの言葉にうなずく子どもたち。風を飛ばして、虫に「また会おうね」と声を送った。